

会 議 録

1 会議名

令和4年度第9回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

- ・八千浦中学校体育館の屋根の修繕について（雨漏り対策）（公開）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」の検討について（公開）

3 開催日時

令和4年12月21日（水）午後6時30分から午後7時22分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原 武、
笠原幸博、関川信之、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、
渡邊修一（欠席者1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：伊倉委員、大島副会長に依頼

議題【自主的審議事項】八千浦中学校体育館の屋根の修繕について（雨漏り対策）について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

・資料No.1「八千浦中学校体育館の屋根の修繕（雨漏り対策）に関する意見書について（回答）」について説明

【仲田会長】

意見書の回答について意見を求める。

【関川委員】

結局のところ、1つも前に進めていないという印象を受けた。「来年度以降速やかに整備を進めていきたい」と言われても、1年後も10年後も来年度以降と言える。また、速やかに何を整備するのもわからない。こういう回答になるのは仕方ないと思う気持ちもあるが、もう少し地域協議会でどうにかならないものかと感じている。

【平野委員】

「築40年以上経過する学校施設が約4割を占めるなど老朽化が進む中」とあるが、老朽化イコール雨漏りということか。老朽化が進んでいても差し支えなく使用できる学校施設もあるかと思う。

【中村センター長】

実情として4割ということであり、全てが雨漏りしているかは事務局では把握していない。ただ、担当課としては雨漏りだけでなく、色々なところで支障が出てきているということで、緊急性、必要性から優先順位を考え、修繕を進めていきたいということである。八千浦中学校体育館の雨漏りの現状や修繕の必要性については、地域同様に認識しているため、なるべく早く実現したいという気持ちはあるが、具体的にいつまでにと約束できるものではないため、こういう回答になったのだと考える。

【仲田会長】

今まで我々が議論してきた経過やこの地域の特性もある。この回答の取扱いを含め、今後の自主的審議事項の進め方について、事務局から案があれば出してもらい、それについて、また皆さんと意見交換したい。

【平野委員】

修繕が終わるまでの間に生徒が怪我をしたらどこが責任を取るのか。我々が体育館を借用している時や、災害で避難している際に怪我をした時では、生徒が怪我した時と対

応する部署は異なると思う。生徒が怪我をしてしまった場合の責任の所在について、明確にされていると思うので、そこを教えてください。

【中村センター長】

それぞれの場面で瑕疵があったところに責任がある。雨漏りが主な原因で怪我をしたのであれば、教育委員会の責任になると考える。

【仲田会長】

施設に瑕疵があれば施設所有者に責任があり、利用者に瑕疵があれば利用者がある程度、負担を負うことになる。公共施設の管理については、そのような取扱いになっていると思う。その点は、学校や教育委員会に伝え、注意をお願いしたい。

今後の自主的審議の取扱いについて、事務局に説明を求める。

【千田主任】

今後の自主的審議の進め方だが「八千浦中学校体育館の屋根の修繕について（雨漏り対策）」は、今回の意見書と回答を以て終了とするか、引き続き継続して審議するかご意見を伺いたい。事務局としては、協議する必要が出た時点で、改めて、自主的審議事項として協議を行うことも可能であるため、今回はこの回答を以て一旦終了としてはどうかと考えている。

今後は「地域活性化の方向性」の検討を進めながら、他の2つの自主的審議を進めていってはどうか。「地域活性化の方向性」と自主的審議と重なる部分もあると思われる。

【仲田会長】

今回の意見書についての自主的審議事項、意見書の提出というところで、一つの区切りができていし、一つは自主的審議事項としては、雨漏り対策は一旦終了として、新年度の予算編成に合わせて途中経過報告をいただいて対応するのも一つの考え方だと思うので、まずその辺で皆さんの意見を伺いたい。

【関川委員】

想像された回答だと思っている。あくまでも意見書として私たちの思いを伝えたということだけだったので、自主的審議事項にしなくても、これは継続していかないといけないと思う。例えば、先ほどから優先順位とかいろいろ言っているが、何か目標達成するためには、数値化していかないといけないと思う。優先順位と言われても、何が優先順か内容がわからない。だから、これから、一つのテーマを研究するためにも、ここはどういうことに基づいて優先順位をつけているか具体的なことを市から聞かないと、意

見書を出しても実現しないと思う。できれば、そういう勉強を皆さんでしていけたら、自分たちが思っている以上に早く実現できるのではないかと思っている。

【仲田会長】

他に意見はないか。

実際、これが実現するまでには、紆余曲折があると思うし、いくつかの疑問点は出てくるので、先ほど言ったように、新年度予算の要求がある程度終わった段階で報告を受けて、新たに具体的な項目があれば、自主的審議事項に加えていくというのも一つの考え方なので、今回の意見書の提出で一区切り付けていくということによいか。

(同意の声)

自主的審議事項としては、この件については一区切りをつける。それから、今ほど事務局から説明があったように、他のテーマについて、それぞれ、これから自主的審議事項として進めていくためには皆さんから、今後いろいろな意見をいただいて、自主的審議事項として継続していくということによいか。異論がなければそのような対応で進めていきたいと思う。事務局にお願いだが、予算要求の段階で報告すべき事項があったらぜひ報告をいただきたい。

次に**【協議事項】**地域活性化の方向性の検討について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・資料No.2 『『地域活性化の方向性』の検討について』に基づき説明

【仲田会長】

前回の出席者の意見をまとめたものが資料No.2なので、欠席をされた方で、これ以外に何かあれば意見として出していただきたい。今後どうしていきたいかについて、12月25日付けの地域協議会だよりで住民の皆さんからも意見をいただく段取りになっているので、当協議会としても今後どうしていきたいかについて、皆さんから意見をいただきたいと思う。

【関川委員】

八千浦地区は、明るい町づくり協議会が受け皿になって、うまくいっていると思うが、今後は、20代、30代の若い人が中心に動いていくような仕掛けづくりをしていかないといけないと思う。海まつりを続けてきて、八千浦区の良さを子どもたちがわかっているようなので、その子どもたちが、ここに戻ってきたときに中心となれるようなイベントを仕掛けていかななくてはならないのではないかと思っている。

それと、海水化工の跡地だが見晴らしも良く、あれだけの土地があるのでうまく利用していけるものを何か考えていければいいと思う。

【柳澤委員】

海水化工の跡地利用としていろいろな話が出ているが、そういう案があったとしても法的な産廃の縛りがある。それが、来年辺りにもう少し緩やかになるのかと思っているが、株主総会やその他でそういう話も出たと話は聞いている。ここと同じ条件で富山県にグラウンドゴルフ場を作っているところがある。1ラウンド、200円だと思う。長い間使っているから、人気があるのではないか。そういう案も聞くが、まだ縛りがあるのでなかなか具体的にはならないのが今の実情である。この間も八千浦海まつり、はまぐみ市で場所を借りて開催したが、皆さんに評判が良くて、こんな景色の良い所があったのかと言う人が多かった。今後を考えたときに地元として、認識を広げていくという方法もあるのかと思う。

【笠原武委員】

保倉川放水路に関して、12月15日に夷浜と遊光寺浜に案内があり、説明会があったようだ。他の集落に対してはそういう話がなかった。ある程度そういう情報を全体の中でいただければと思う。

【仲田会長】

事務局で何か情報はあるか。

【中村センター長】

事務局では、説明会があったことを把握していなかった。

【仲田会長】

私は、別の立場で簡単な説明を受けた。それは、集中豪雨で雨量が今後非常に多く見込まれる。その場合、現計画で進めてよいのか、或いは、雨量が増えた時に、放水路に逃がす水の量と関川に出す水の量と、それから、関川から流れてくる水の量、その辺の計算をこれから始める。それによって、保倉川放水路の計画の変更も有り得るということだった。地元にも、その辺の説明はしたいということだった。夷浜と遊光寺浜に説明があったのかはわからないが、要は、今の計画よりも今後雨量が増える見込みがあるので、今の計画の見直しをしていきたいということである。そうすると、すごく時間がかかる。国の予算枠があって順位があるので、その順位を遅らせるわけにはいかない。今、大河津分水路も進めているが、雨量計算の再見直しを行っているそうだ。そんなに大き

な変更はないだろうが、変更が有り得るという情報は受けている。地元の夷浜、遊光寺浜の皆さんに何か情報があったらご披露いただきたい。

【伊倉委員】

国交省の担当者が来て会議があったが、会長が言われたとおりである。

【平野委員】

今の話は、変更ということだが、具体的にどこをどうするという話は出ているのか。例えば、場所を変えるとか。

【仲田会長】

国交省の言い方は、この辺だということを示しているが、ルートは決定していないという立場である。私が聞いたのは、堰だとか、例えば、排水が毎秒何トンという説明あったが、そうした場合に放水路の幅や深さ、それから、関川が増えてきたときに関川の流量調整をしなくては行けないが、関川の改修があるのかと聞いたら、それを検討する。だから、変更するとは言っていない。微妙である。要は、全国的に河川の流量の見直しを全部しているらしい。それというのも、爆弾低気圧みたいなのが発生して、あちこちで川が氾濫して災害が起きている。だから、放水路の計画のあるところやダムとかの流量計算を見直して、計画の変更があるのであれば、検討したいというレベルである。

【関川委員】

今の話はよくわからないが、結局、ゲリラ豪雨とか雨量が増えるからということは、リスクが高くなるということである。だから、変更となると、もっと早く着工して、すぐ作るという意味にしか取れない。

【仲田会長】

また、情報があれば事務局で収集していただきたい。「変更する」とは言っていない。変更するとは言っていないが、今の計画をそのまま進んでよいのか、国全体でそういう検討をしているので、その対象として、新潟県では、保倉川放水路と大河津分水路が対象になっているという言い方である。具体的に何かというと、堰とか幅とか深さとか、そういうものが今の計画でよいのか、そこが検討の対象になっているという話である。

今後どうしていきたいかは、先ほど若い人達が動けるような仕掛けづくりが必要だという話が出ているので、何かここに、自然、歴史文化、その他もいろいろそれぞれ今まで出た意見もあるが、それ以外に何かあれば出していただきたい。また、住民の皆さん

からどういう課題が出てくるかわからないが、北諏訪の地域協議会だよりからすれば、今回の我々が検討してきたような中身として意見が出てくるのではないかと思う。あまり具体的に固定すると、住民の意見をどう吸収して、我々が検討していくということになりかねないので、今のところ、先ほど事務局から説明があったように大まかな方向性だけでも皆さんから出していただければと思う。

【関川委員】

先ほど、一村一校という話もあったが、どんどん人口も減ってくることから、この地域協議会で何とかということではないが、例えば、南川小学校区が八千浦中学校に来るようにするとか、ここの人口が増えれば活性化に繋がると思う。具体的に教育委員会でも、今まで頸城村だったから、こっちに来られなかったが、上越市になっているので、そんなことを昔検討されたという話も聞いている。だから、1つの小学校が八千浦中学校に来れば中学校は大きくなる。そうすると活性化に繋がるのではないか。

【仲田会長】

他の区で区をまたいだ学校の統廃合の検討を始めるような報道もあったので、一つには、一村一校のメリット、プラス、今言ったように学区を越えても見直してみたいなものも必要かということかと思う。

他に何かあるか。

【羽深委員】

人口減少が著しい中で、外部の人をから来てもらうことが大事なのもかもしれないが、現状として人口が減っているということは、地元の人が外に出ているということなので、外から呼ぶことよりも、まず、八千浦区に定着してもらうには何をやったらよいのかというのが必要なのではないかという気はする。外から来てくれと言っても「自分のところで人口が減ったから、外から来いとはどういうことだ」という見方をされるところもあるのではないか。確かに、私の家の近所もみんな出てしまって若い人がいない。だから、まず定着してもらうためにはどうしたらよいのか。それがわかれば自然とよそからも来てもらえるのではないかと思う。それも、非常に大事なことはないか。

【仲田会長】

今、聞いていて思ったのは、若い人が出ていく原因は何かを調べれば、大体わかるような気がする。その辺で皆さんから何かないか。こういうことをすれば、若い人が残るのではないか、どうしていきたいかという意見があれば出していただけるとありがたい。

【笠原武委員】

私たちの中では、具体的な行動はなかなかできないが、八千浦地区は、明るい町づくり協議会が主体的に動いている。その中で八千浦地区のメリットをもう少し具体的に示す方法がないものか。火力発電所の景色とか、ボートや突堤の魚釣りとか、そういうものをある程度目に見える形で全体に呼び込みができないかと思う。

【関川委員】

青少年育成会議では、大きなテーマとして、今の中学生が今後の上越市を支えていくということだった。これからを担う中学生を中心に意見交換をして、いろいろ多様性がある中で、その子たちが戻って来られるような話し合いをしていくべきだと思う。

【仲田会長】

明るい町づくり協議会のホームページの中に、中学生の提案が載っている。あれは内容としては非常に良いものなので、今言われたように中学校が代々議論していくような環境づくりが必要なかと思う。私が会長であった時に、提案したが生徒会の教諭が変わったら終わってしまった。その辺が課題の一つなので、明るい町づくり協議会との協議も非常に重要な案件かと思う。

【平野委員】

地域の活性化を考える場として、20代から50代ぐらいの人達が話合う場がないと思う。そういう場を設けるのが一番よいのだが、それが駄目であればそういう環境を作る必要があるのではないか。

【仲田会長】

平野委員のおっしゃるとおりで、そういう場所をどうしていきたいかという中で設置をしていく。それを、地域協議会が働きかけていくか、或いは、さっき出たように明るい町づくり協議会と協議して、セットで一緒に働きかけていくか、そういうやり方も一つはあるのかなと思う。今の平野委員の意見について意見を求める。

【柳澤委員】

今回、はまぐみ市と海まつりを文化展と同日に行った。天気が悪い中でも、瞬間的には1,000人ぐらい集まったのではないかと思うし、小学生も始めは気乗りしない様子であったが、最後には立派にパフォーマンスをやってくれた。意外と盛り上がったと、手前みそながらそう思う。だから理想論かもしれないが、平野委員が言ったような、何かそういうイベントをやれば人間が集まるかもしれないと思った。

【関川委員】

結局、何かやろうとしても、自分自身が楽しくなければ誰も集まらないし、そういう楽しい場を提供する仕掛けをしていかななくてはならないと思う。八千浦の旧道沿いで、クリスマスの電飾をみんなでやろうとか、そういうことでもないとなかなか話し合いとか集まる場と言っても難しいのかと思っている。何か、楽しいことがないと人は集まらないと思う。

【仲田会長】

我々が一番検討しないといけないと思っているものが、出たと思う。まさに若い人たちが関心を持つことはどういうことか、自分たちが同じような年代の時に何をしたかを思い出しても、環境が変わっているし文化も進んでいる。だから、なかなか焼き直しはできない。毎年、同じことをやっても駄目だろうし、新しいものを展開するには、それなりの工夫と、スタッフの育成とか、そういう場所を作る必要があるだろうと、こういうふうにごるごる回ってしまうわけで、それでも議論する場所が必要だと、そこからスタートするのが一番よいのかなというのは感じた。こういうやり方から少し検討したらどうだというのがあれば、出していただけるとありがたい。こういうことを議論すれば何か活路が見出せるのかなという中身がいくつか出されているので、今日出された意見を少しまとめていきながら、住民から意見を募集するので、それらを併せて、さらに方向性の協議をしていきたいと思っている。もし言い忘れがあったら、12月25日付けの地域協議会だよりも意見として書いていただけるとありがたい。この件は引き続き継続して、議論をしていくということによろしいか。今、出された意見は事務局と相談して少しまとめていきたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・ 次回の協議会：1月27日（金）午後6時30分から

【仲田会長】

その他、委員の皆さんから何かあるか。

【関川委員】

今、八千浦小学校の体育館も雨漏りしている。それもまた検討していかないといけないと思う。

【仲田会長】

小学校の体育館の雨漏りについては、学校側に問い合わせを試みてほしい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。